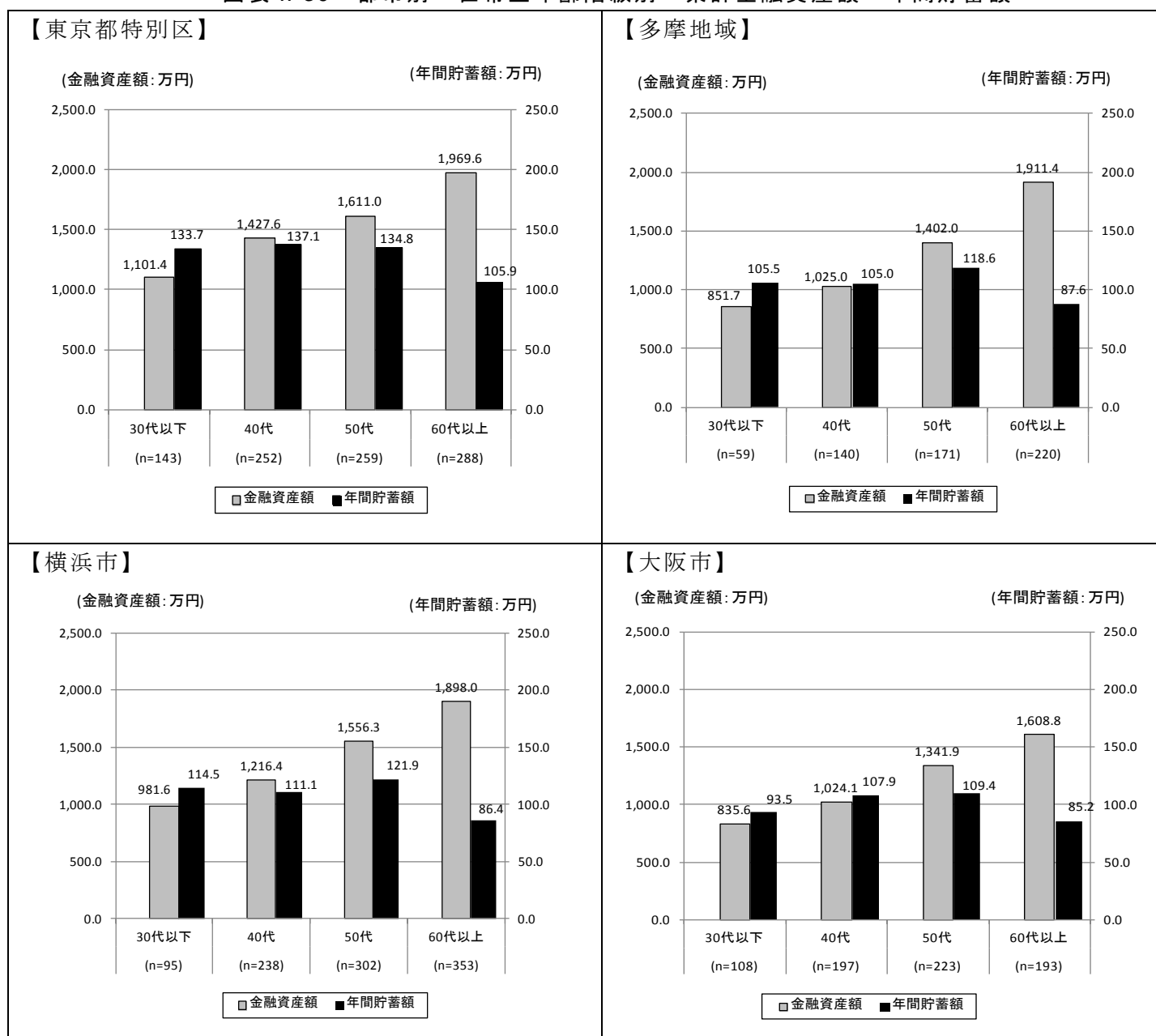


(5) 累計金融資産額・年間貯蓄額

① 累計金融資産額・年間貯蓄額〔年齢階級別〕

- ・各都市とも、年齢が高くなるほど金融資産額は高い。年間貯蓄額は50代までは概ね上昇傾向にあるが、60代以上になると低下する。
- ・特別区は、各年齢階級とも最も金融資産額は高いが60代以上では多摩地域や横浜市と大きな差はない。年間貯蓄額については、どの年齢階級でも他都市よりも高くなっている。
- ・大阪市は、各年齢階級とも、金融資産額がやや低くなっているが、年間貯蓄額は多摩地域や横浜市とほぼ同額である。

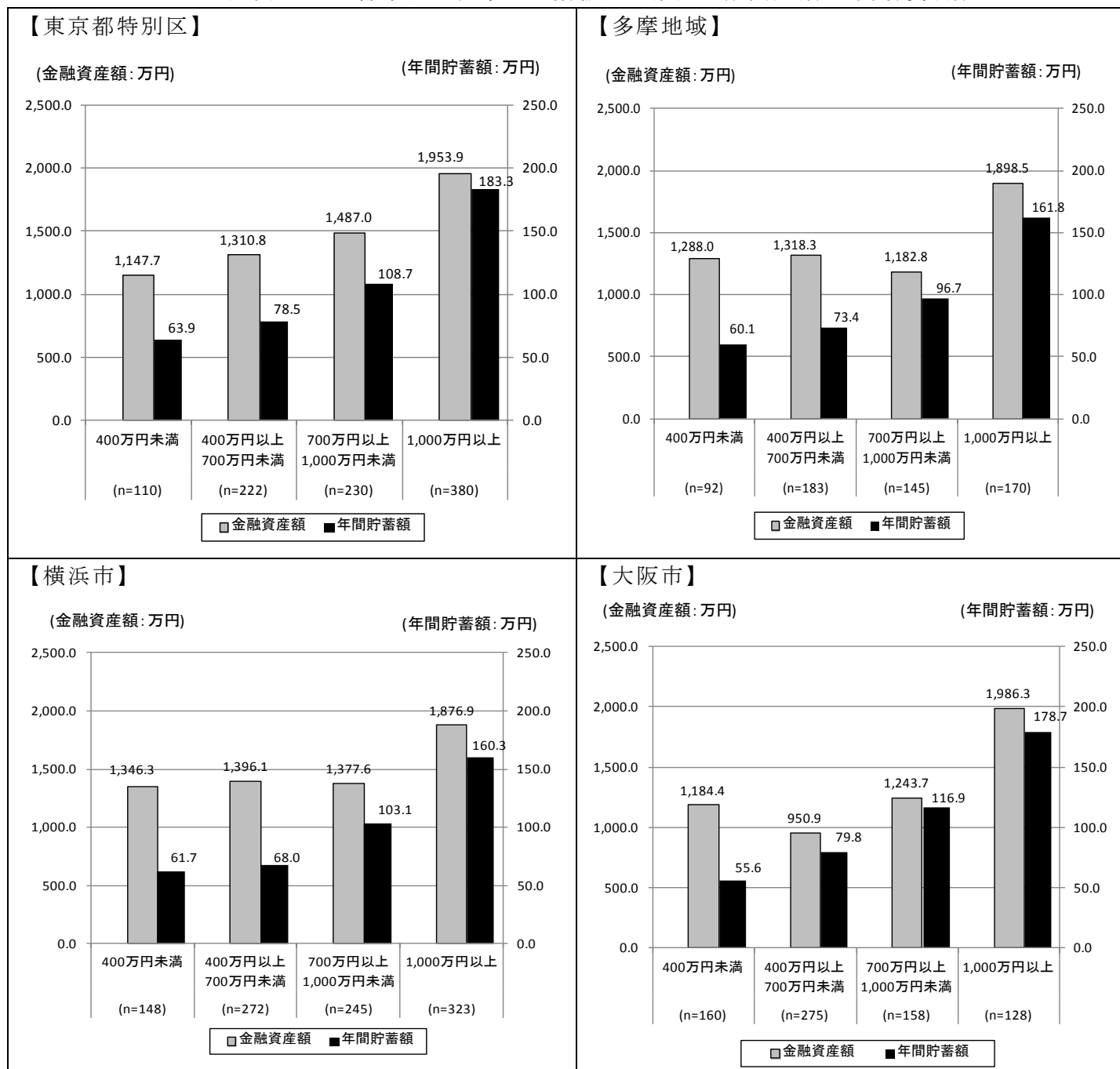
図表 II-30 都市別・世帯主年齢階級別・累計金融資産額・年間貯蓄額



②累計金融資産額・年間貯蓄額〔収入階級別〕

- ・各都市とも、概ね収入額が高いほど金融資産額も高い。
- ・特別区は、世帯収入階級別に見ると、他都市に比べて金融資産額が特に高いとは言えない。1,000万円以上階級では、大阪市が最も金融資産額が高くなっている。
- ・年間貯蓄額については、各都市とも世帯収入階級別の傾向は類似しているが、特別区と大阪市が、若干、多摩地域や横浜市よりも高い。

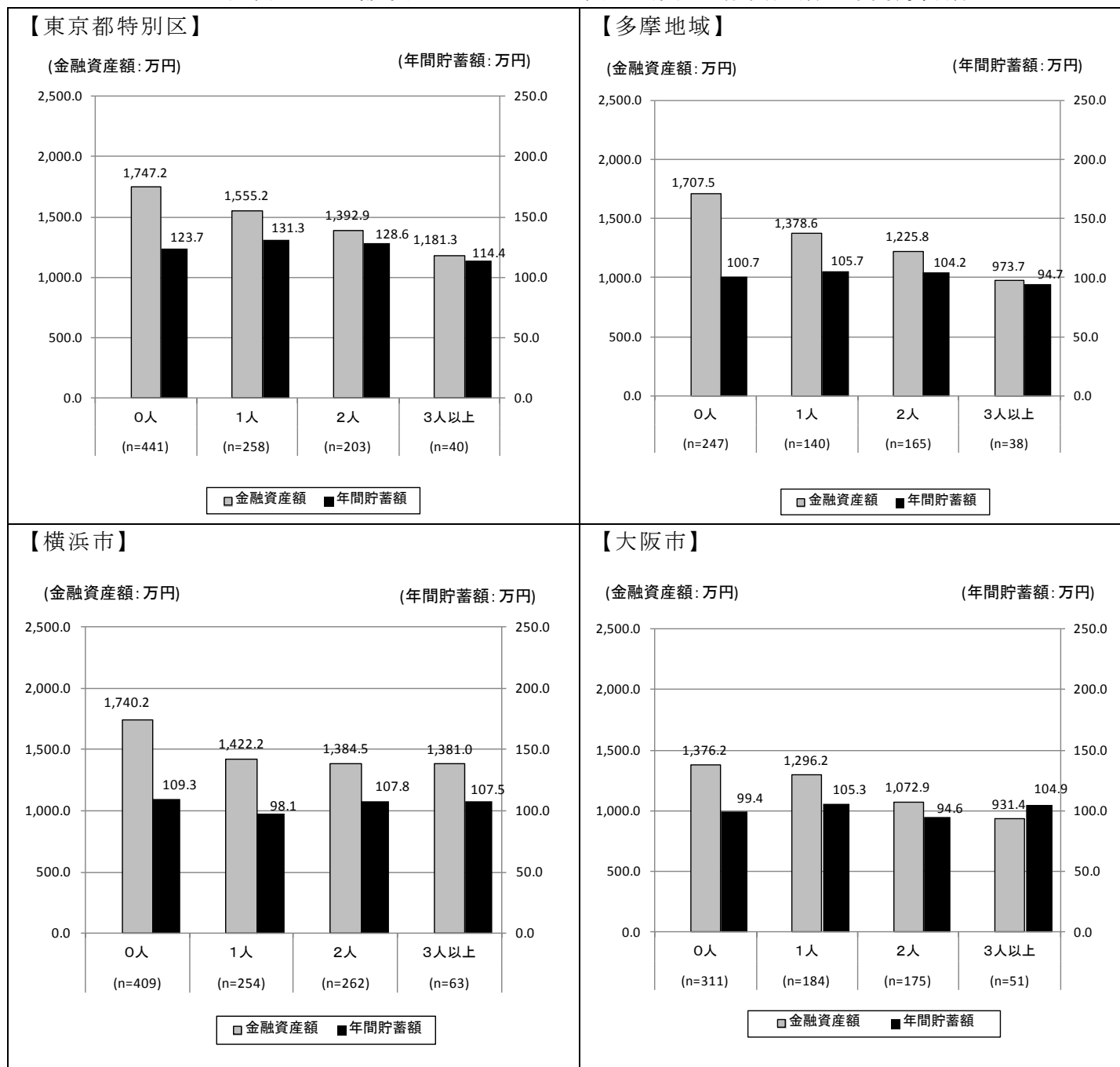
図表 II-31 都市別・世帯収入階級別・累計金融資産額・年間貯蓄額



③累計金融資産額・年間貯蓄額〔子どもの人数別〕

- ・各都市とも、子どもの人数が多いほど金融資産額は低い。しかし、年間貯蓄額は、子どもの人数とは関係なく、ほぼ一定である。
- ・特別区は子どもの人数が0人から2人までの世帯では、他都市に比べて金融資産額が高いが、子どもの人数が3人以上の世帯では、横浜市の金融資産額が最も高い。
- ・年間貯蓄額は、子どもの人数が何人であっても、特別区が他の都市よりも高い。

図表 II-32 都市別・子どもの人数別・累計金融資産額・年間貯蓄額

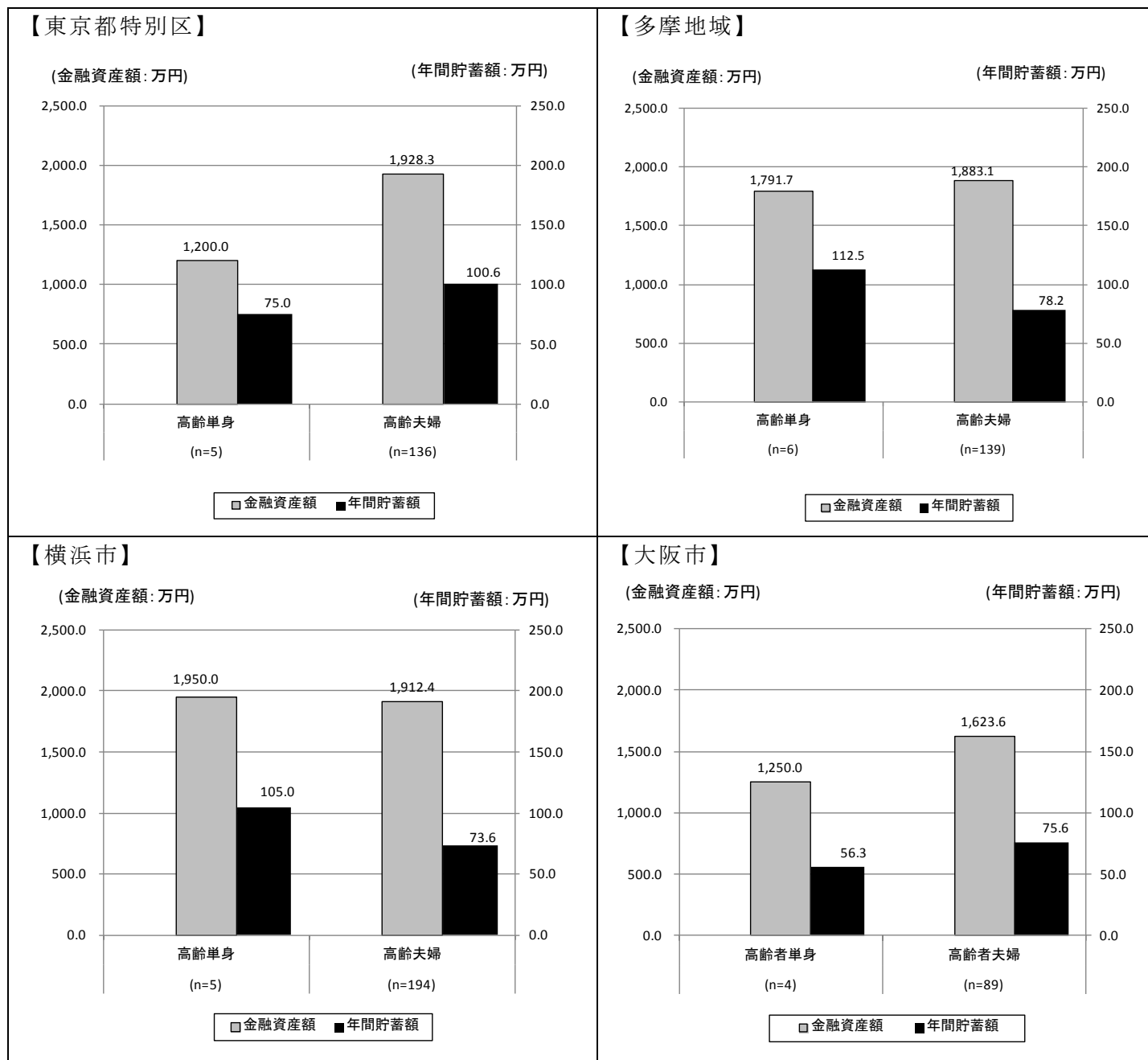


④累計金融資産額・年間貯蓄額〔高齢世帯別〕

- ・高齢夫婦世帯の方が高齢単身世帯よりも金融資産額が高い（横浜市を除く）。
- ・高齢夫婦世帯で見ると、特別区は横浜市とほぼ同額の金融資産額を保有しており、多摩地域や大阪市よりも高い。また、年間貯蓄額は、多摩地域、横浜市、大阪市はほぼ同額であるが、特別区は他都市よりも高くなっている。

※ 各都市とも高齢単身世帯の回答が少ないため、分析結果の解釈には留意が必要。

図表 II-33 都市別・高齢世帯別・累計金融資産額・年間貯蓄額

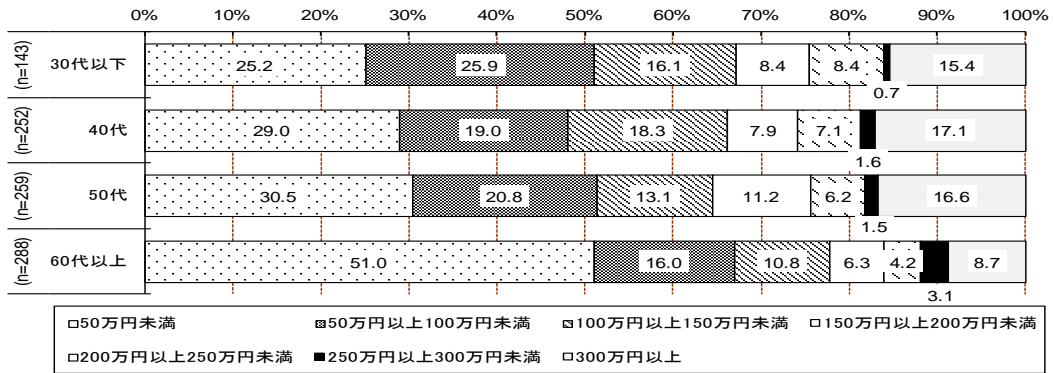


⑤-1) 年間貯蓄額構成比〔年齢階級別〕

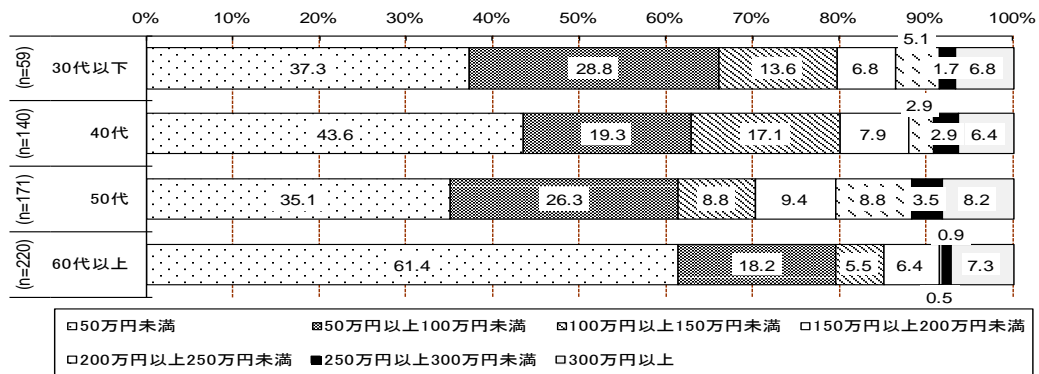
・特別区は、いずれの年齢階級でも年間貯蓄額 100 万円以上の割合が高い。
 ・特別区では、年間貯蓄額が 100 万円以上の世帯の占める割合は、世帯主が 50 代以下の場合には約 50%、60 代以上の場合でも約 30%に達しているが、他都市では、それぞれ 30～40%と、20%程度に留まっている。

図表 II-34 都市別・世帯主年齢階級別・年間貯蓄額構成比

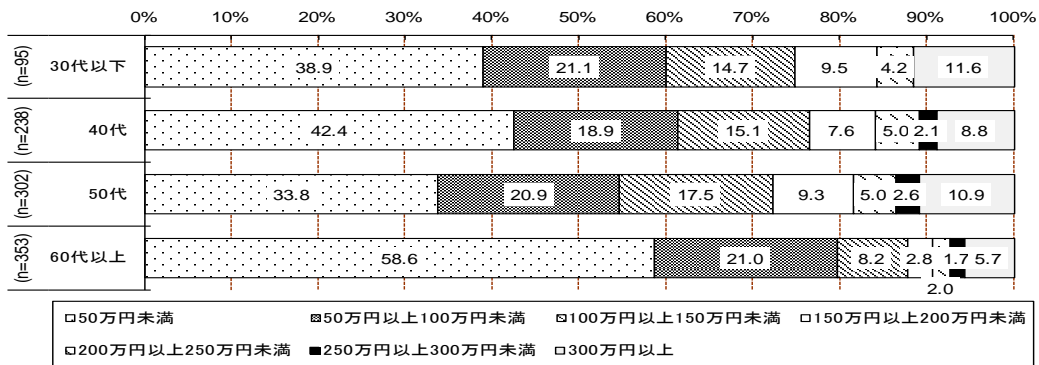
【東京都特別区】



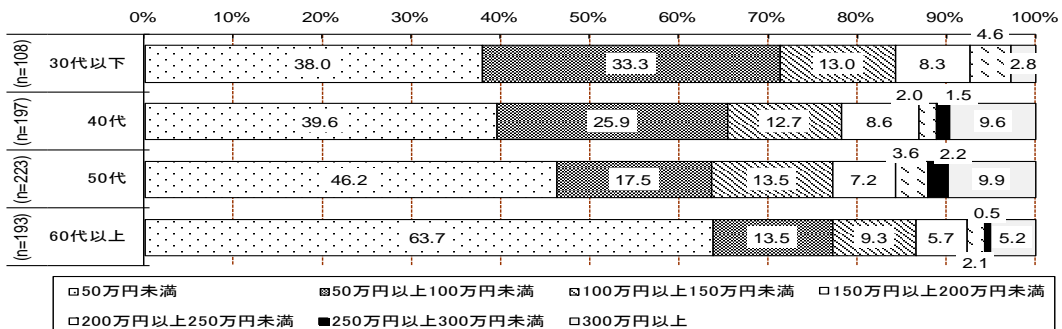
【多摩地域】



【横浜市】



【大阪市】

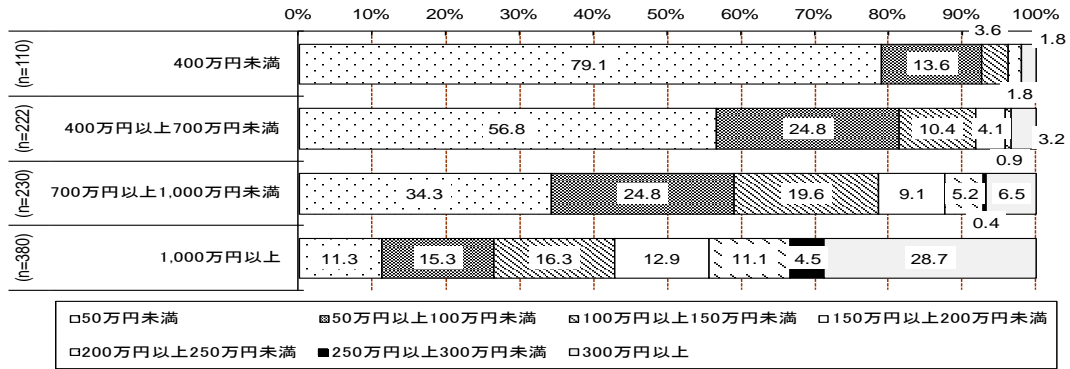


⑤-2) 年間貯蓄額構成比〔収入階級別〕

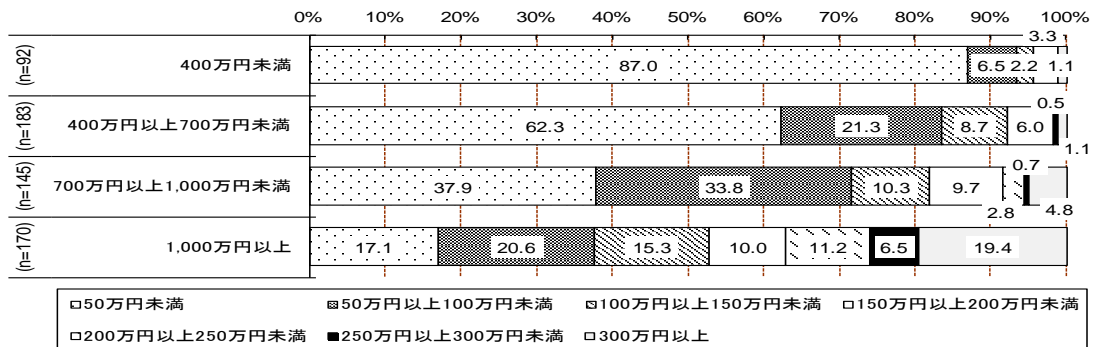
- ・いずれの都市でも、収入額が高いほど、年間貯蓄額は増加する。
- ・特別区における年間貯蓄額の構成比は、いずれの収入額でも、他都市の同じ収入額での年間貯蓄額構成比とほぼ同じになっている。ただし、1,000万円以上世帯では、年間貯蓄額300万円以上の割合が、他都市に比べて高い。

図表 II-35 都市別・世帯収入階級別・年間貯蓄額構成比

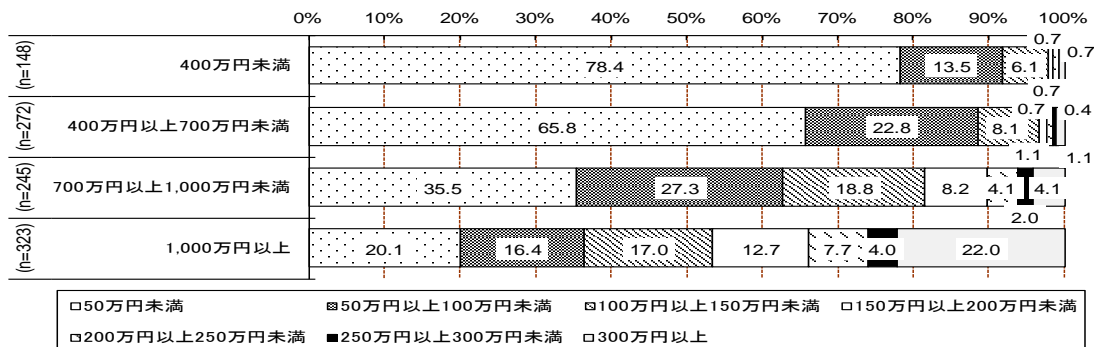
【東京都特別区】



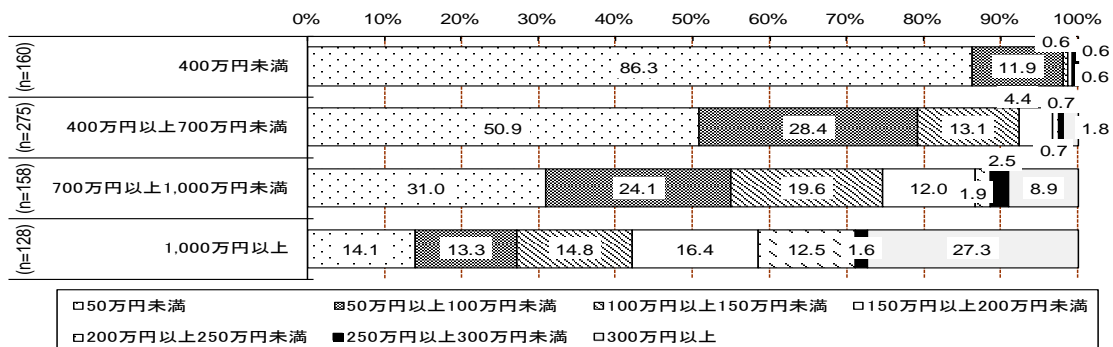
【多摩地域】



【横浜市】



【大阪市】

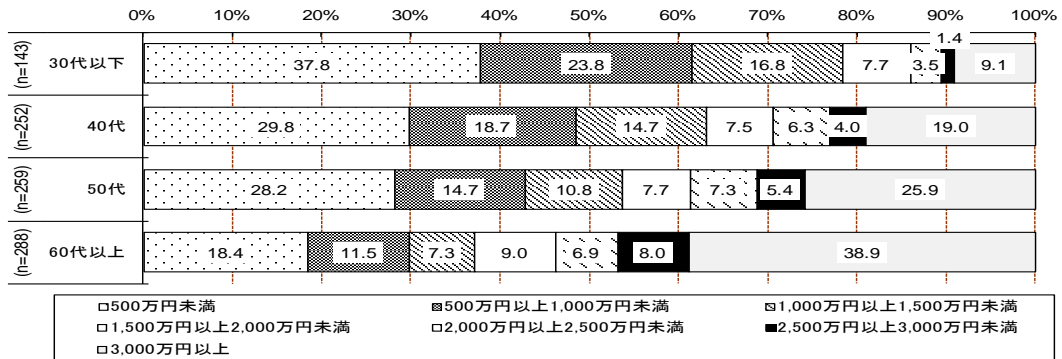


⑥-1) 累計金融資産額構成比〔年齢階級別〕

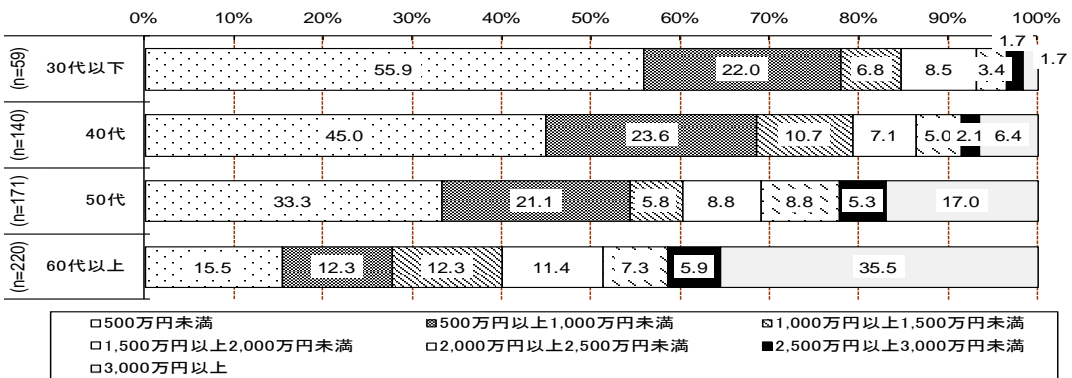
- ・特別区は、いずれの年齢階級でも、金融資産額が高い世帯割合が他都市よりも高い。
- ・特に、40代以下の比較的若年層においては、金融資産額 1,500 万円以上の割合も、3,000 万円以上の割合も、他都市よりも高くなっている。

図表 II-36 都市別・世帯主年齢階級別・累計金融資産額構成比

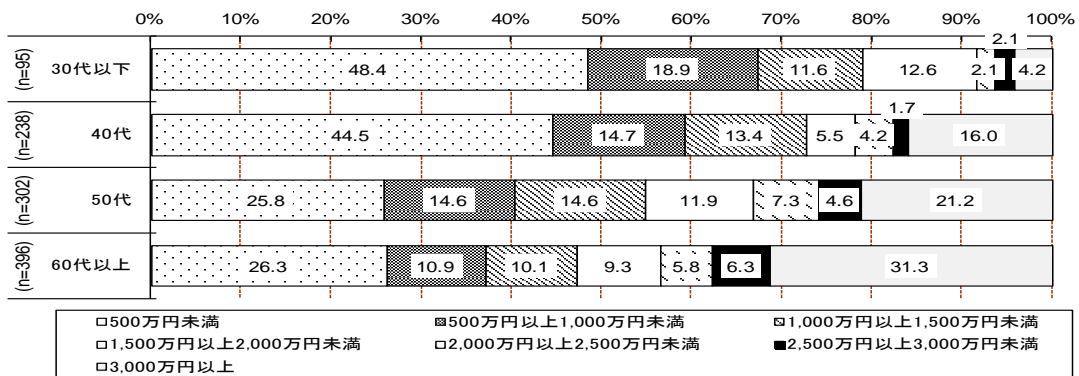
【東京都特別区】



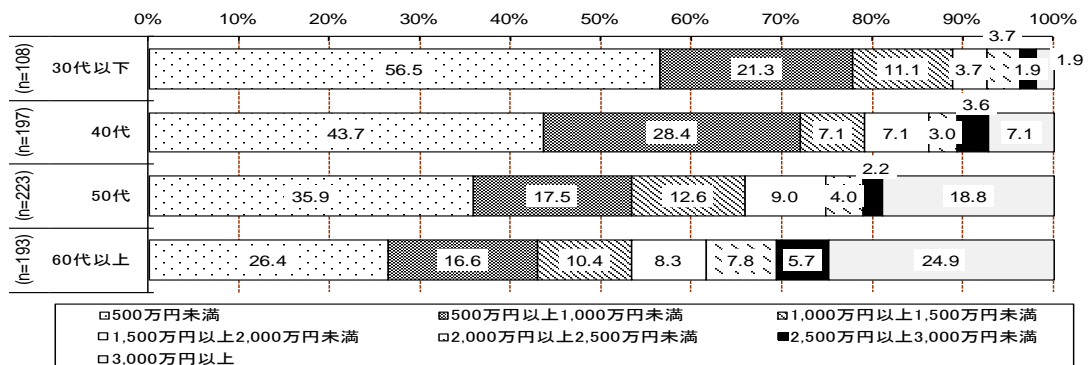
【多摩地域】



【横浜市】



【大阪市】

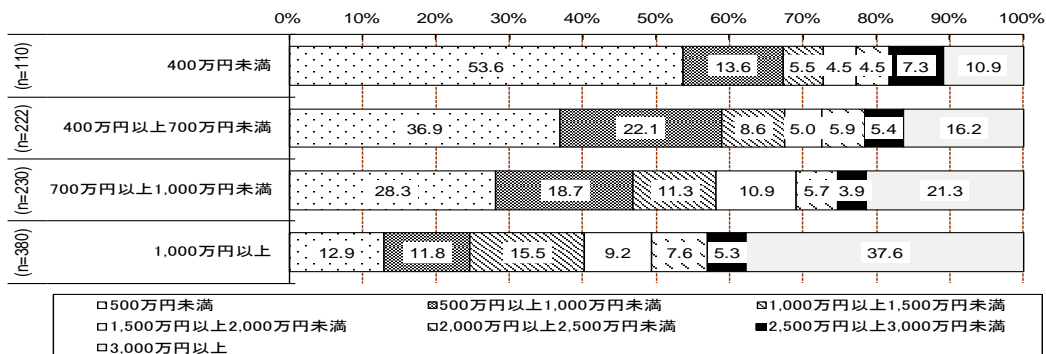


⑥-2) 累計金融資産額構成比〔収入階級別〕

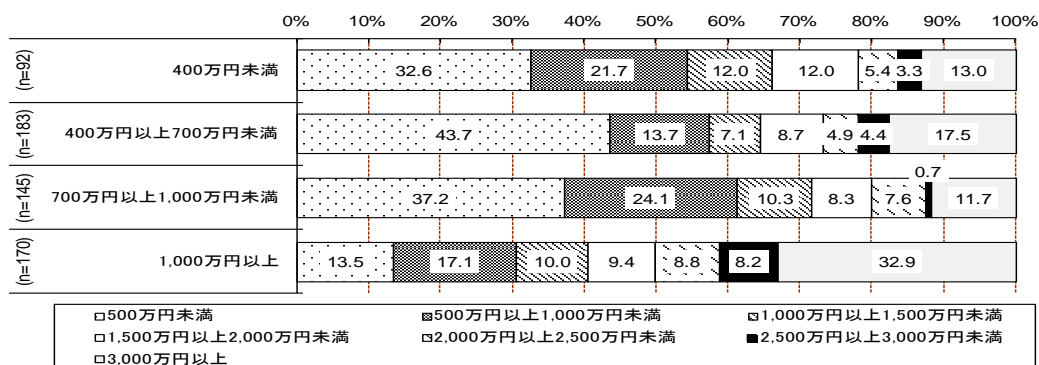
- ・特別区では、他都市と同様に、収入額が高くなるにつれ、金融資産額の高い割合が増加している。
- ・ただし、収入額 1,000 万円以上の世帯では金融資産額の高い割合が他都市よりも顕著に高いものの、400 万円未満の世帯では、金融資産額が低い割合も高くなっている。

図表 II-37 都市別・世帯収入階級別・累計金融資産額構成比

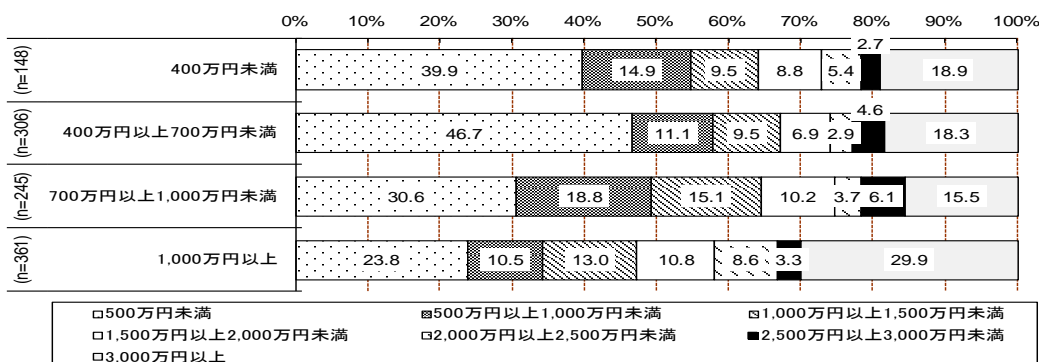
【東京都特別区】



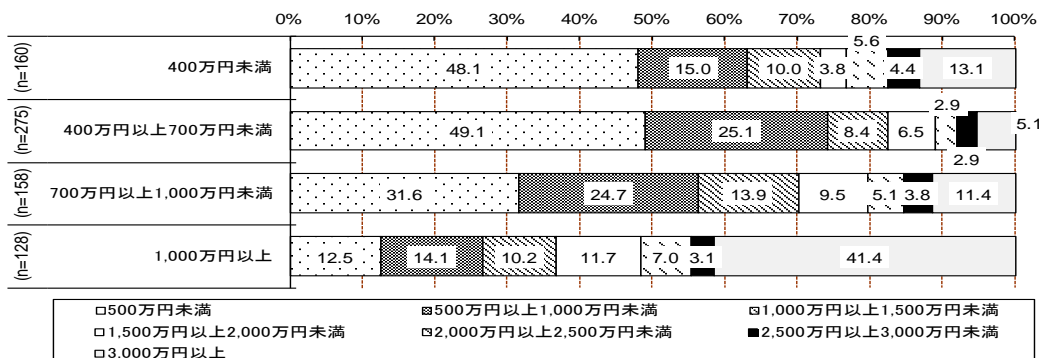
【多摩地域】



【横浜市】



【大阪市】



Blank

(空白ページ)